

オイスカバレー部、静岡産大生から技術指導

バレーボール部 基本技術を強化 オイスカ浜松国際高 静岡産大生招きセミナー



レシーブの練習に励む生徒
＝浜松市中央区のオイスカ浜松国際高

オイスカ浜松国際高（浜松市中央区）とLPガス販売の「エネジン」（同）はこのほど、女子バレーボール部の合同実技セミナーを同校で開いた。同校と舘塚中（同）の生徒計27人が、静岡産業大（磐田市）の学生13人から技術指導を受けた。

基本的技術を伝えようと、学生が練習メニューを考案した。レシーブとパスの指導では「重心をつま先の前の方にして構える」「飛んできたボールを体の下まで待ち、膝の反動を利用して放つ」などと説明した。生徒は学生の手本を参考にして技術の上達に励んだ。

オイスカ浜松国際高2年の加藤星部長（16）は「普段の練習で意識しない細かい基礎を教えてもらった。学びを練習試合などに生かしたい」と話した。

学校と協力して地域活性化を目指す同社の「部活動サポート企画」の一環として企画した。



オイスカ浜松国際高校の女子バレーボール部員が、静岡産業大学の学生13人から技術指導を受けました。学生が考案した練習メニューをもとに、レシーブやパスの練習し、普段とは違った指導・交流を実施！部活動や地域のスポーツクラブを長い目でバックアップしていくことでスポーツを通して学校や地域が活性化することを目指していきます。

令和6年(2024年)11月27日(水) 静岡新聞

